

〔曲名〕 さくら

〔曲種〕

〔作曲者〕 橋本国彦

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

原曲は二部合唱曲で、筆者がまだ名古屋放送管弦楽団(NHK)や女性合唱団等の指揮をしていた頃(終戦直後)写譜しておいたものに拠った。

それが印刷したものからでなかったので、確かめたいと思い、多くの作曲家の資料を豊富に蒐(あつ)められている東京・日本近代音楽館に問い合わせたところ、

橋本国彦の資料の中にも、これが見え出せなかった。

作者の死後20年、同窓の四家文子女史によって第1の歌曲集が出版されたが、その中にも含まれていないし、予定の第二集(未刊)の中にも見い出せないのである。

当時は終戦直後の混乱期に際会していたので失われたものが多いと聞いているが、或いは本曲もその一つかと思われる。

歌詞は深尾須磨子で、桜の花を謳歌しただけのもので、“光の花よ、希望の花よ、優しい花よ、凛々しい花よ”とか、

“大和の国のしるしの花よ、心の花よ、歴史の花よ、誉れの花よ”と、色々歌いあげているが、何よりも作者独特の流麗な旋律が魅力である。

原曲は変イ長調であるが、弾き易くするために半音上げてイ長調とした。

メロディとハーモニーは不可分のものであるが、マンドリンでは何と云っても美しい旋律が優先する。

1993年 3月 発行

マンドリン合奏曲集4集 (JMU版 パート譜付) より